

日本アートマネジメント学会第 22 回全国大会

プログラム

大会テーマ「パンデミック後の社会におけるアートマネジメント」

日本アートマネジメント学会第 22 回全国大会は、2020 年 12 月 7 日(月)から 13 日(日)の 1 週間、オンラインで開催することになりました。大会テーマは「パンデミック後の社会におけるアートマネジメント」です。

2020 年 12 月 7 日(月)から 11 日(金)は各部会(北海道・関東・中部・関西・九州)による「五夜連続企画」を開催し、12 日(土)と 13 日(日)は分科会と特別講演を予定しています。参加申し込み方法、プログラムは以下の通りです。奮ってご参加ください。

1. 開催情報

日程 2020 年 12 月 7 日(月)～13 日(日)

会場 オンライン(全てのプログラム/zoom または YouTube)

参加費 [7～11 日の五夜連続企画] 会員・非会員ともに無料

[12・13 日の分科会・特別公演] 会員は無料、非会員(学生含む)は 2000 円

前年度の会費が未納の会員は、非会員扱いとなりますのでご注意ください。

2. 参加申し込み方法

12 月 7 日～11 日(金)の「五夜連続企画」と 12 月 12 日(土)・13 日(日)の「分科会・特別講演会」は、参加申し込み方法が異なります。ご注意ください。

●12 月 7 日～11 日(金)の各部会による「五夜連続企画」への参加申し込み

イベントごとに、各部会で申し込みを受け付けます。2 ページからの「3. プログラム概要」に記されている申し込み方法より手続きください。

●12 月 12 日(土)、13 日(日)の分科会・特別講演会への参加申し込み

会員・非会員とも、以下の URL (google フォーム) または QR コードより申し込み手続きをお願いします。

<https://forms.gle/y2rQ9W9tX9iZfsjUA>



参加登録が確認できた参加者に対して、参加方法の詳細を 12 月上旬にメールで送付します。

※非会員の方は、12 月 4 日(着)までに参加費をお振り込みください。確認できない場合は、ご参加いただけません。

3. プログラム概要

12月7日（月）から11日（金）：五夜連続企画

※下記の申し込み方法より、各部会へ直接お申し込みください。

関東部会企画

地域型アートプロジェクトの評価の試み～行政・現場・評価者それぞれの立場から価値の見える化を考える～

日時 2020年12月7日（月）19:00-21:00

場所 オンライン配信（YouTube）

内容 静岡県文化プログラムは、地域型アートプロジェクトが主である「地域密着型プログラム」の、設立から5年を経て生まれた成果や価値を外部の専門評価者を交えてまとめた報告書を今後公開予定である。現場に伴走する専門家、評価者、行政それぞれの立場からどのようにその「価値」を共通言語化し、指標化しながら実践に取り組んだのか。また、コロナ禍において「集まらない」ことに価値を見出したアートプロジェクトの視座とは。見えてきた課題や今後の評価のあり方を探理、共有する。

<登壇者>

佐野直哉（静岡県文化プログラム プログラム・コーディネーター）

松田有紀（静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課 参事）

大石歩真（UNMANNED 無人駅の芸術祭・NPO 法人クロスメディアしまだ理事長）

兒玉絵美（UNMANNED 無人駅の芸術祭・NPO 法人クロスメディアしまだ事務局長）

中谷美南子（一般財団法人 CSO ネットワーク）

<コメンテーター>

吉本光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事・芸術文化プロジェクト室長）

源由理子（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授）

<進行>

槇原彩（東洋英和女学院大学非常勤講師）

共同企画：佐野直哉、槇原彩

申し込み方法 下記 peatix ページよりお申し込みください。

<https://jaamkanto2.peatix.com/>

申し込み締め切り 2020年12月7日（月）18:00 まで

九州部会企画

トークリレー：コロナ禍を超えて～九州アートマネジメントの今とこれから～

日時 2020年12月8日（火）20:00-22:00／終了後オンライン交流会を予定（30分程度）

場所 zoom

内容 九州部会会員を中心に、北部九州地区の文化ホール、美術館、文化団体などの関係者が新型コロナウイルス感染拡大に伴うこれまでの取り組みと今後の展望、現場の思いなどをリレー形式で語る。合わせて全国各地で行われた「文化芸術関係者の新型コロナウイルスの影響調査」結果から見えるものを大澤寅雄氏（ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員）からご報告いただき、アートマネジメントの領域における課題の整理や今後の新たな取り組みへつなぐ。

プログラム

<前半> 大澤寅雄氏による全国各地の「文化芸術関係者の新型コロナウイルスの影響調査」結果報告（ビデオレター）

<後半> 九州部会会員によるトークリレー（トークリレー出演者：〔 〕はトーク時間）

出口亮太氏（長崎市チトセピアホール・北公民館館長）〔10分〕

小牧達彦氏（アクロス福岡プロデューサー）〔10分〕

蒲池昌江氏（福岡アジア美術館学芸課交流係）〔5分〕

－休憩－

荻野哉氏（大分県立芸術文化短期大学准教授）〔5分〕

野村菜美氏（大分県立芸術文化短期大学非常勤講師）〔5分〕

坂口美由紀氏（熊本の文化情報誌「ドコサ?」編集長）〔10分〕

八坂千景氏（iichiko 総合文化センター企画普及課副課長）〔10分〕

定員 100名（先着順）

申し込み方法 メールにて①氏名②所属③携帯電話番号④メールアドレス⑤会員・非会員の別を明記の上、右記へお送りください。九州部会事務局 jaam.ksb@gmail.com

申し込み締め切り 2020年12月6日（日）まで

関西部会企画

AM ラジオ～ここしか聞けないアートマネジメントの現場のホンネ

日時 2020年12月9日(水) 19:30-21:00/終了後オンライン交流会 21:15-22:00

場所 zoom

内容 この企画は、複雑に入り組んだアートとコロナの課題に鋭いメスを入れたいと思いつつ、様々な現場の課題を本音でゆるーく語り合う、ながら視聴に最適なトークプログラムである。現役のアーティスト(音楽系)、アートマネジャー(美術系/地域系)、NPO(中間支援)、指定管理者(劇場)などが抱える課題を生々しく共有し、何も結論は出ないかもしれないが、きっとアフターコロナに向けたヒントになる、そんなトークを繰り広げることを目指している。詳細は関西部会 HP (<http://jam-w.net/index.php/news/archives/33>) をご覧ください。

定員 80名(要事前申し込み・先着順)

申し込み方法 参加希望者の方は下記のフォームに必要事項を送信ください。

<https://forms.gle/V3YPoternLPoRUBE6>

申し込み締め切り 2020年12月8日(火)まで

中部部会企画

アートにおける中部のレジリエンス ～コロナ禍でみえること～

日時 2020年12月10日(木) 20:00-22:00

場所 zoom

概要 スウェーデンに5年間滞在した品川佳代氏(元パティオ池鯉鮒プロデューサー)をゲストに迎え、北欧のアートマネジメントの状況や、それを支える考え方をご報告いただく。また、クラリネット奏者の中村由加里氏(名古屋芸術大学助手)による研究発表(「社会貢献としてのアウトリーチが音楽家にもたらすもの」と、林健次郎会員(愛知県芸術劇場)の「中部におけるコロナ禍への取り組み(仮)」の報告により、柔軟な対応が求められるアートマネジメントについて、中部の状況を起点に実践的に考える。

申し込み方法 以下のフォームよりお申し込みください。

<https://forms.gle/E8LPFTCEQ1wuF9u18>

申し込み締め切り 2020年12月8日(火)まで

北海道部会企画

アートマネジメントフォーラム 2020

「地方に移住するアーティスト—MAYA MAXX を囲んで—

日時 2020年12月11日（金）19:00-20:30

場所 zoom

内容 北海道内陸部にある岩見沢市東部丘陵地域の山間、美流渡にこの夏アトリエを開いた画家・MAYA MAXX さん。ようやく準備が整い、本格的な制作が始まった。2011年に暮らした拠点を北海道に移し、その後美流渡に移住、〈森の出版社ミチクル〉を立ち上げた、元美術出版社の編集者・來嶋路子さんとのセッションや、魅力たっぷりの MAYA さんのアトリエ紹介映像をお楽しみいただきます。

ナビゲーター：宇田川耕一（北海道教育大学教授）

申し込み方法 件名「五夜連続企画北海道部会係」、氏名、ご所属、会員・非会員の別を記し、下記へお送り下さい。お問い合わせもこちらへ。

北海道部会事務局 jaam18th@gmail.com

（返信メールで ZOOM の ID、パスコードをお送りします）

申し込み締め切り 2020年12月10日（木）

詳細は、北海道教育大学岩見沢校のホームページ（<https://www.hokkyodai.ac.jp/iwa/>）の「お知らせ」に近日中に告知します。

12月12日（土）：特別講演

文化・芸術の第一線で活躍するドイツと日本の専門家による特別講演を配信します。

日時 2020年12月12日（土）15:30-17:00

場所 zoom

＜スピーカー＞

トビアス・J. クノープリヒ 氏

エアフルト市「文化と都市発展」担当副市長／ドイツ文化政策協会会長。

1971年、旧東ドイツのザクセン州 ツヴィッカウ生まれ。18歳でロベルト・シューマン・コンセルヴァトリウムにて、ファゴットの上級クラスを修了。ベルリン・フンボルト大学において、文化学・文化政策学・ヨーロッパ民族学を専攻。1996年～2001年まで、ベルリンでフリーランスの文化研究者、ジャーナリスト。その後、ザクセン州 学術・芸術省の音

楽調査官に任命される。

2002年～2010年まで、ザクセン州 社会文化州連盟協会の事務局長として働く傍ら、「ザクセン州 行政・ビジネスアカデミー」の文化マネジメント学講師と文化学の試験官となる。同時に、ザクセン州青少年財団の委員長に就任。2007年、ザクセン州の州首相によって、州文化上院議員に指名される（～2017年）。

2011年～2018年度まで、テューリンゲン州の州都エアフルト市の文化局長を務めた。2019年2月～「文化と都市発展」担当副市長に就任。研究活動としては、2016年、ヒルデスハイム大学の文化学専攻で、博士号取得（哲学）。博士論文は、「社会文化の綱領諸文と実践諸形式：文化的民主主義としての文化政策」。さらに、フランクフルトのヴィアドリナ欧州大学 講師（文化マネジメントと文化観光学）、2019年～2020年冬学期のライプツィヒ大学の客員教授も務めている（文化マネジメント学）。2003年からドイツ文化政策協会の理事。2018年からは会長を務める。

宮城聰 氏

SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督

1959年東京生まれ。演出家。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月 SPAC 芸術総監督に就任。

自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。

2018年より東京芸術祭総合ディレクター。2006～2017年 APAF アジア舞台芸術祭（現アジア舞台芸術人材育成部門）プロデューサー。2019年東アジア文化都市 2019 豊島舞台芸術部門総合ディレクター。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

12月12日(土)・13日(日):分科会プログラム

12月12日

時間	発表種別	発表タイトル	発表者	所属
座長: 赤木舞 (武蔵野音楽大学)				
9:30-10:10	研究報告	パフォーマンス・アーツ鑑賞者の裾野拡大に求められる認知要素 ～知識のカテゴリ理論より～	堀田治	日本大学商学部
10:15-10:55	研究報告	地域における歴史的建造物の価値変遷について ～名古屋市覚王山「揚輝荘」の事例を中心に～	川口晃慶	大阪市立大学大学院都市経営研究科
座長: 志村聖子 (相愛大学)				
11:00-11:40	研究報告	アートマネジメントを実践しながら研究するとはどういうことか ——リフレクシブなアートマネジメント研究に向けて——	石橋鼓太郎	東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科
11:45-12:25	研究報告	アート作品及びアートプロジェクトが住民等に与える影響について —瀬戸内国際芸術祭高見島を事例に	稲田浩司	大阪市立大学大学院都市経営研究科
12:25-13:10	休憩			
座長: 川本直義 (株式会社 伊藤建築設計事務所)				
13:10-13:50	実践報告	コロナ禍におけるハンズ・オン展示とユニバーサル・ミュージアムの取 り組み —九州国立博物館の事例から—	茂泉千尋	九州国立博物館展示課
			加藤小夜子	九州国立博物館展示課
13:55-14:35	研究報告	リアル/オンラインにおける経験のちがいを問うこと	登久希子	国立民族学博物館
14:40-15:20	研究報告	COVID-19下のアートツーリズム	井出明	金沢大学国際基幹教育院
15:20-15:30	休憩			
15:30-17:00	特別講演			

12月13日

時間	発表種別	発表タイトル	発表者	所属
座長: 朝倉由希 (文化庁)				
9:30-10:10	研究報告	パブリック・アートに対する機能主義批判についての考察: ロザリン・ドイッチェを中心に	松本理沙	京都大学大学院人間・環境学研究所
10:15-10:55	研究報告	デッサンにおける通信教育の潮流—パンデミック後の展望を探る	井出温美	富山大学大学院芸術文化学研究所
			松田愛	富山大学
11:00-11:40	研究報告	行政における「文化専門職」に関する一考察 —鹿児島県、東京都、横浜市を事例として—	熊田知晃	明治大学政治経済学部
11:40-13:00	休憩			
座長: 高島知佐子 (静岡文化芸術大学)				
13:00-13:40	研究報告	なら国際映画祭の10年 —資金・人材・場からの分析—	松本茂章	公立大学法人静岡文化芸術大学 文化政策学部
13:45-14:25	実践報告	地域コミュニティ支援型の映画祭をめぐる諸状況	畑中朋子	和光大学表現学部
14:30-15:10	実践報告	札幌文化芸術交流センター SCARTSにおける文化芸術活動を支える事業 展開について	松本桜子	公益財団法人札幌市芸術文化財団
座長: 関鎖京 (北海道教育大学)				
15:15-15:55	研究報告	社会包摂につながる芸術活動のアートマネジメントに必要な「視点」の 生成	村谷つかさ	九州大学大学院芸術工学研究院
16:00-16:40	研究報告	障害のある人の文化芸術活動に関する研究—文化芸術の社会包摂の機能 に着目して—	小野田由実子	法政大学大学院人間社会研究科
座長: 長津結一郎 (九州大学)				
16:45-17:25	研究報告	公立劇場における障害者への鑑賞サポート事業実施の促進要因について —ピッコロシアター、あうるすぽっと、熊本県立劇場を事例に—	古川知可子	兵庫県立尼崎青少年創造劇場 大阪市立大学大学院都市経営研究科
17:30-18:10	研究報告	刑務所演劇に関する一考察—アウフブルッフの日本招聘に向けて	風間勇助	東京大学大学院

以上

大会運営

実行委員会

伊東正示（関東部会長）
宇田川耕一（北海道部会長）
梶田美香（中部部会長）
古賀弥生（九州部会長）
松本茂章（会長）
三戸俊徳（関西部会長）

プログラム委員会

朝倉由希（関東部会）
畔柳千尋（中部部会）
高坂玲子（関西部会）
佐藤良子（関東部会）
志村聖子（九州部会）
高島知佐子（関西部会）
中川広一（北海道部会）
松本茂章（関西部会）

サポートスタッフ

上野航（IT）
池田イリナ（ドイツ語翻訳）

特別講演監修

藤野一夫（神戸大学）